

詰連珠ドリル

【上級編①】

サンプル

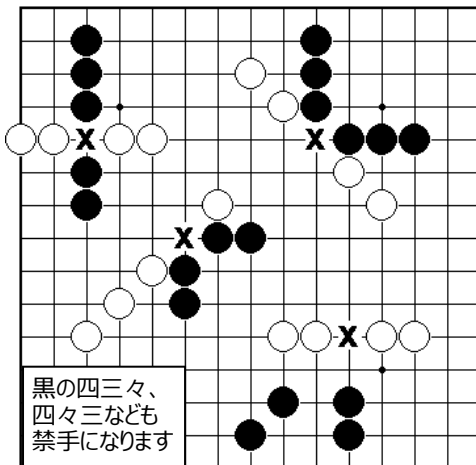
出題：河村典彦九段

2024年3月1日発行

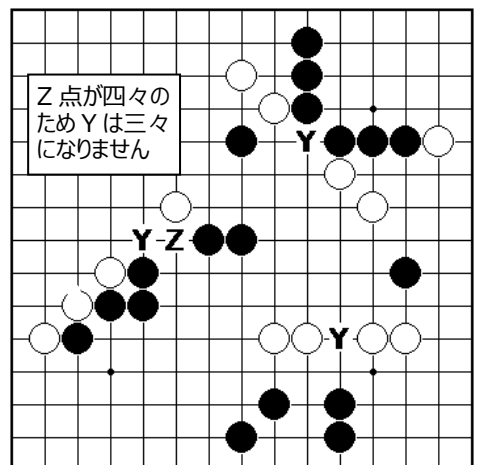
【連珠のルール】

- 連珠盤（15×15）を使います
- 黒石と白石を使います
- 黒が先手、白が後手で交互に打ちます
- 黒は最初に中央の「天元」に打ちます
- 縦、横、斜めのいずれかに早く「五連」を並べた方が勝ちです
- 黒にのみ、三々、四々、長連の禁手があります
白は黒に禁手を打たせても勝ちです

【禁手の例】



【禁手にならない例】



この詰連珠ドリル、いよいよ上級編まで来ました。上級編は手数にこだわらず難しい問題を用意しています。そのため1手詰も多くあります。手数は短くとも、罨が多く仕掛けてあります。いわゆる1手詰でも3手棒四の考えが必要な問題もありますので、ヒントとして詰め上がりまでの手数も書いておきました。

いつものように黒先問題を70問、白先問題を30問合計100問ご用意しました。各問題にヒント、解答にはちょっとした解説をつけていますが、禁手を理解していないとわからないことが多いと思います。初心者のうちは手を出さず、実力が上がった時にチャレンジしていただいた方が詰連珠を嫌いにならなくて済みます（笑）。腕に自信のある方は、ぜひチャレンジしてみてください。

第1問【黒先】（一手四三）

どちらかの四三はノリ手になります

第2問【黒先】（三手棒四）

本物の四三は一つだけです

第3問【黒先】（三手棒四）

四々を打たないように

第4問【黒先】（三手棒四）

ノリ切り勝ちを目指します

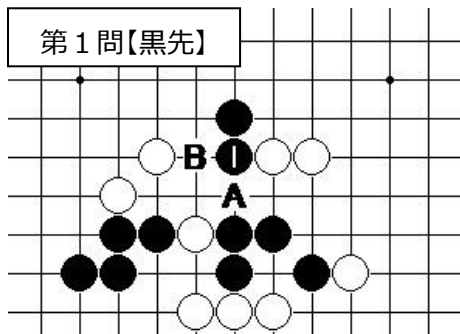
詰連珠を解くコツ

- ・四ができる場所に注目する
- ・ノリ手（止めた手が四や三になる手）や禁手に注意する
- ・トビ四、トビ三、斜めの筋は見づらいので特に意識して見る
- ・わかったと思っても、頭の中で再度確認する

この難解編も1手で勝てる問題ばかりなのですが、三々禁や四々禁を解禁して棒四を作る、など難しい問題も入っていますし、見えづらいノリ手も含まれています。回答を見てもわからない場合は、上級者の人に聞いてみましょう。

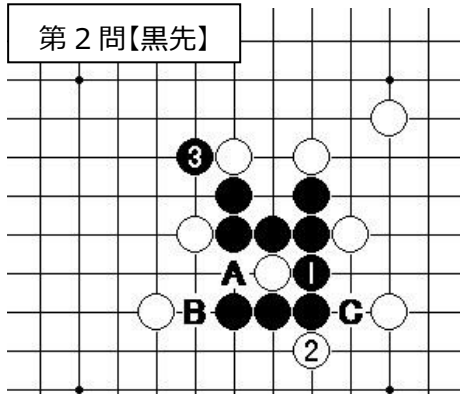
● 解答

第1問【黒先】



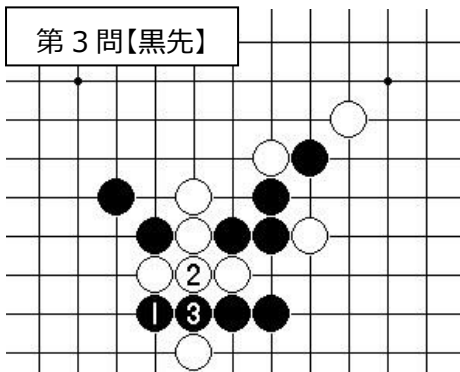
黒1をAはノリ手、Bは四三になりません

第2問【黒先】



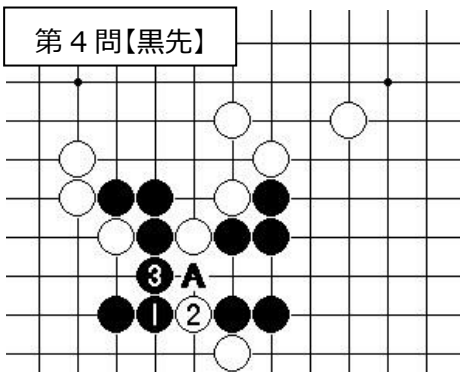
黒1をA・B・Cは四三になりません

第3問【黒先】



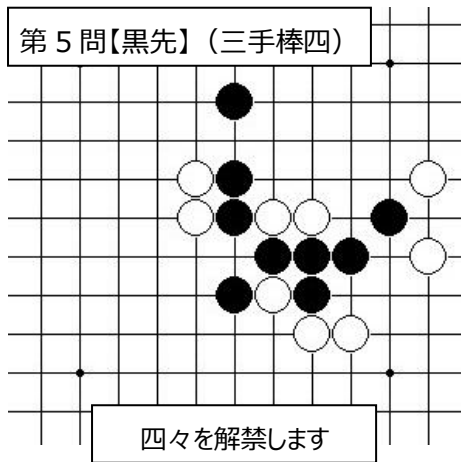
黒1を2は四々で打てません

第4問【黒先】



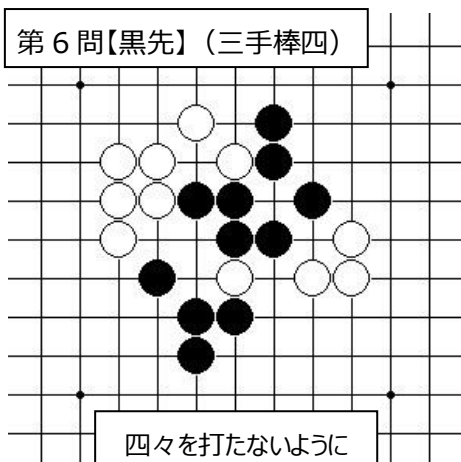
黒1は四三々ではなく打てます
黒1をAは四三ではありません

第5問【黒先】（三手棒四）



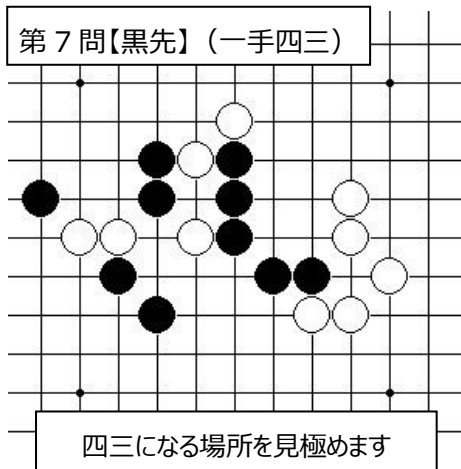
四々を解禁します

第6問【黒先】（三手棒四）



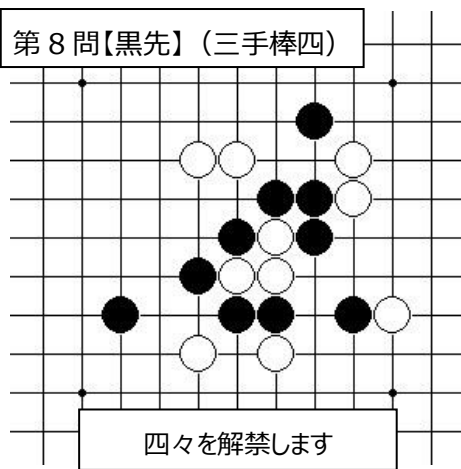
四々を打たないように

第7問【黒先】（一手四三）



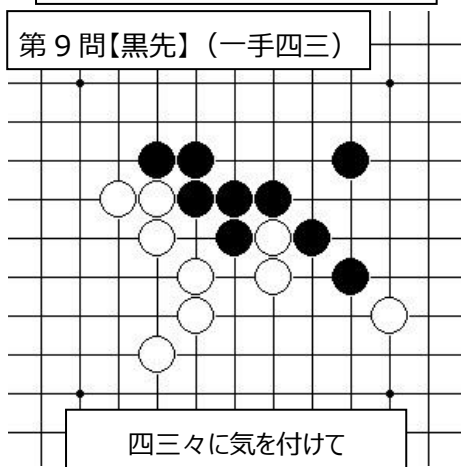
四三になる場所を見極めます

第8問【黒先】（三手棒四）



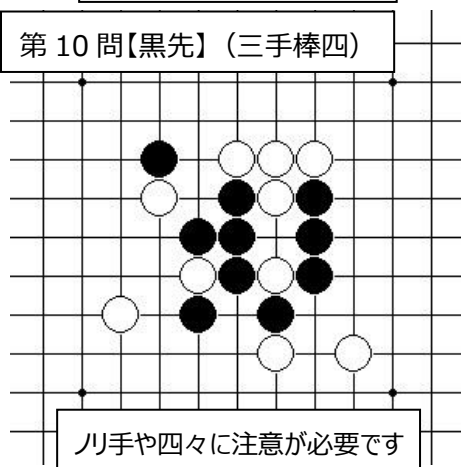
四々を解禁します

第9問【黒先】（一手四三）



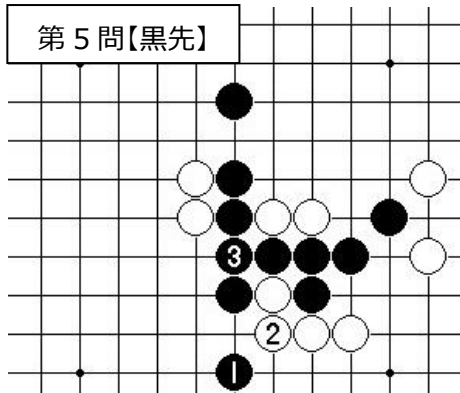
四三々に気を付けて

第10問【黒先】（三手棒四）



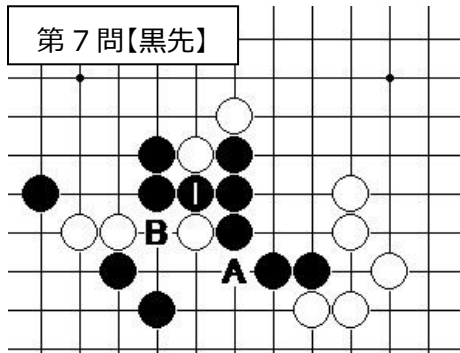
ノリ手や四々に注意が必要です

第5問【黒先】



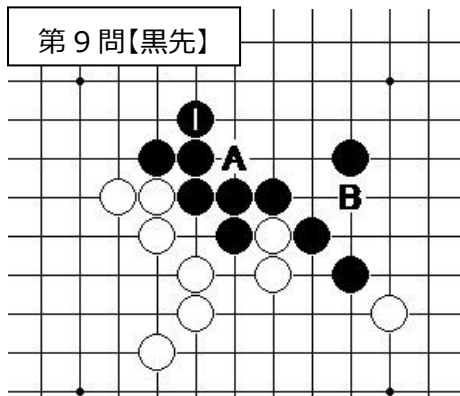
黒1で縦の筋は長連筋になります

第7問【黒先】



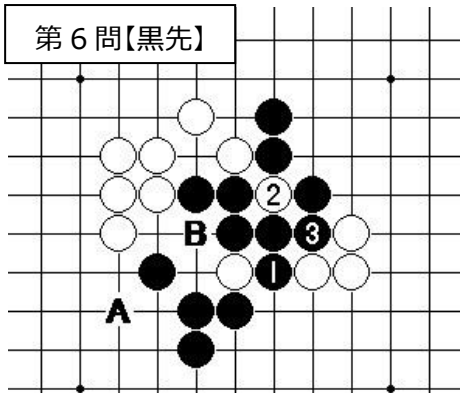
黒1をA・Bは四三ではありません
黒1はB点が四々になるので打てます

第9問【黒先】



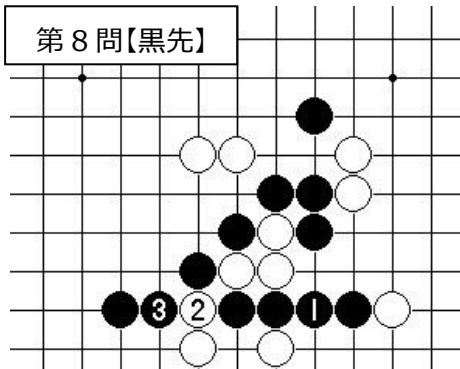
黒1をAは四三々、Bはノ手です

第6問【黒先】



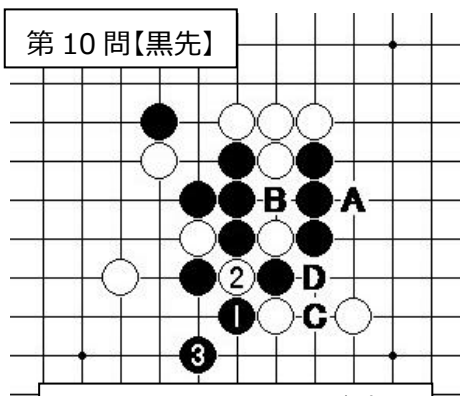
黒1をAはノ手、2・Bは四々です

第8問【黒先】



黒1で3が打てるようになります

第10問【黒先】



黒3をAは四々なので注意
黒1をAはノ手、BCは四々
2やDは四三になりません